

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
3【そなえる】	⑮【東日本大震災津波の様子と被害の状況】 平成23年3月11日に発生した、東日本大震災津波の様子と被害の状況について理解する。 ⑯【学校・家庭・地域での日頃の備え】 避難場所や避難方法、避難経路を把握して、安全に避難する。家具の安全対策、避難の方法や落ち合う場所、非常時持ち出し品、放射線についての正しい理解など、学校や家庭でできる防災対策を行う。地域の防災システムを理解し、防災活動に参加する。	夏季休業

【題材】

大船渡市立第一中学校との生徒会交流、仮設住宅訪問

【対象】

滝沢村立滝沢第二中学校生徒会執行部、専門委員会委員長

【実践の概要・詳細】

【生徒会交流会】

- ①第一中学校の生徒会活動発表
- ②滝沢第二中学校の生徒会活動発表
- ③質疑応答

* その中で、滝二中の生徒から『滝沢でも岩手山噴火という災害が心配される。**地域と一緒にできる防災活動とは何か?**』という質問が出され共に考えようということになった。黒板にそれぞれの考えを書き出し、互いにヒントを得た。『沿岸と内陸では災害の種類が違う所もあるが、防災マップを配る案は今後取り組んでいきたいと感じた。』と滝二中の生徒会長が意見を述べた。



【生徒感想】

○今回の交流では、まず防災について話し合いをしました。一中の人たちは自分たちが体験して不便だと思ったことを思い出してまとめていて、さすがだと思いました。体験していない人たちでは出ないような意見も出てびっくりしました。

○大船渡一中の生徒会のみなさんは、滝二中の生徒会にいろいろな質問をして解決をしている姿を見て、自分たちが目指す姿ではないかと思いました。

○大船渡一中では「希望」という新聞が震災時から不定期ではあるが約2か月ごとに出されているのを聞き、滝二中でも頑張らなければと思いました。防災訓練については、お年寄りとの交流や地域マップについての意見が出されたが、「避難するときよりも避難した後の対応が大切」という大船渡一中の生徒会長の意見に驚きました。

○これからの生徒会活動やそれぞれの学校の紹介をし、その良さを見つけ出しながら話し合いを進めることができました。滝二中はなかなか意見を出すことができなかつたけれども、大船渡一中の生徒会の方々が引っ張ってくれて、とても楽しい交流会になりました。9月1日に行われる防災訓練で、自分に何ができるかを考え、行動したいです。

【仮設住宅集会所訪問】

- ① 震災当時のお話、現状
- ② 質疑応答
- ③ 中学生に送る言葉

*この後、実際に仮設住宅の部屋の中に入れていただき、話を伺うことができた。



【生徒感想】

○震災当時の様々なお話を聞いて、今、被災地が置かれている辛い状況も聞くことができました。今回の訪問で印象に残っているお話があります。1つ目は、家の中に入れてさせていただいたときに、その方が「1度自殺を考えた」「今日を楽しむ」と話してくださったことです。すごく深く、何より震災で辛くても前向きに頑張ろうという気持ちが伝わってきました。2つ目は、自治会長さんの「今するべきことにしっかり取り組んでほしい」というお話です。強い自覚を持つことができました。

○震災で体験したことがとてもよくわかりました。体験した人たちは、その話をするのがとても辛そうで、聞いている自分たちも真剣に聞けました。生きることがとても大事だということを再認識させていただきました。

【まとめ】

実際に被災地を訪問し現地に立つことで、見えるものがあることは当然だが、実際に話を聞くことでより多くの収穫を得ることができた。同世代との交流、また大人の視点での話の両方が生徒にもたらしたものは大きい。ここで生まれた自覚が、その後に行われた**地域防災訓練への参加**につながった。滝沢に住む者ならではの防災意識、そして地域との連携へ生徒たちの意識がより強まったと思われる。次に記した地域の方々からの感想が、生徒たちの気持ちをより後押ししてくださるものになった。



【防災訓練後、参加した地域の方々からの感想】

- 感動している。今後も地域の活動、行事等にぜひ参加してほしい。かつては中学生が参加する行事はなかった。頼もしい限り。
- 高齢化が進み心細い中、中学生の若さを見るだけでも力をもらえる。
- 将来の滝沢市を背負っていくのだから、中学生の参加はとても良いことだ。